

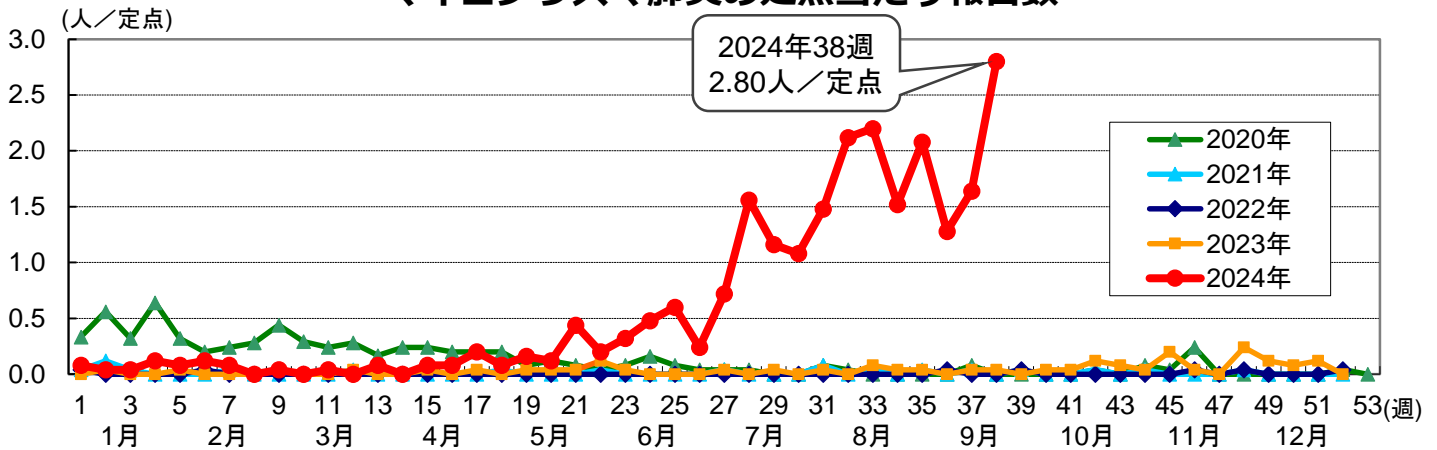
マイコプラズマ肺炎ってどんな病気??

どんな病気?

「マイコプラズマ・ニューモニエ」という細菌によりおこる病気です。子供から若い世代の大人を中心にみられる病気です。以前は4年周期で流行を繰り返していましたが、最近はこの傾向がみられなくなり、近年では2015年、2016年に流行がみられて以降、新型コロナウイルス感染症流行禍の2020年～2023年では報告の少ない状況が続いていました。

しかし、2024年第38週（9月16日～22日）において、定点当たり報告数が2.80人となり、1999年以来最も高い値となっており、久しぶりの流行となっています。

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数



どんな症状がでるの?

潜伏期間は2～3週間と比較的長いです。発熱、全身倦怠感（全身のだるい感じ）、頭痛などが最初に表れた後、3～5日に痰を伴わない咳がみられます。咳は、熱が下がっても3～4週間程度続きます。最初は痰が少なくて咳が続くうちに痰を伴う咳になる場合があります。一般に、肺炎のわりに症状が軽いことが特徴であるとされていますが、重症化したり、無菌性髄膜炎、脳炎、中耳炎などの合併症がおこることもあります。

どうやってうつるの?

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる病原体を吸い込むことによる感染（飛まつ感染）や、病原体が付着した手で口や鼻に触れることによる感染（接触感染）があります。

治療法や予防法は?

治療法は抗菌薬（マクロライド系）による治療が基本となりますが、軽症の場合は、抗菌薬なしで経過をみる場合もあります。

特別な予防法はありません。飛まつ感染と接触感染が主な感染経路であるため、石けん・流水による手洗いや、周りに広げないように、咳やくしゃみをするときには、口と鼻を覆う、咳があるときはマスクをするなどが大切です。